

設せつ我得がとく佛ぶつ・十方じつぱう世界せかい・無量むりやう諸佛しよぶつ・不ふ悉しつ咨嗟しやしや・稱しょう我が名みやう者しや・不ふ取しゆ正覺しょうがく。

設せつ我得がとく佛ぶつ・十方じつぱう衆生しゆじやう・至し心しん信しん樂ぎやう・欲よく生しやう我が國こく・乃ない至し十じゆう念ねん・若にやく不ふ生しやう者じや・不ふ取しゆ正覺しょうがく・唯ゆい除じよ五ご逆ぎやく・誹ひ謗ぼう

正しょう法ぼう。

設せつ我得がとく佛ぶつ・十方じつぱう衆生しゆじやう・發ほつ菩ぼ提だい心しん・修しゆ諸しよ功く德どく・至し心しん發ほつ願がん・欲よく生しやう我が國こく・臨りん壽じゆ終じゆ時じ・假け令りやう不ふ與よ・大だい衆しゆ圍い繞にやう・現げん其ご人にん前ぜん者しや・不ふ取しゆ正覺しょうがく。

設せつ我得がとく佛ぶつ・十方じつぱう衆生しゆじやう・聞もん我が名みやう號ごう・係け念ねん我が國こく・植じき諸しよ德どく本ほん・至し心しん廻え向かう・欲よく生しやう我が國こく・不ふ果か遂すい者しや・不ふ取しゆ正覺しょうがく。

設せつ我得がとく佛ぶつ・國こく中ちゆう人にん・天てん不ふ悉しつ成じやう滿まん・三さん十じゆう二に大だい人にん相そう者しや・不ふ取しゆ正覺しょうがく。

(二六) たとひわれ仏を得たらんに、國中の人・天、乃至不善の名ありと聞かば、正覺を取らじ。

(二七) たとひわれ仏を得たらんに、十方世界の無量の諸仏、ことごとく咨嗟して、わが名を称せずは、正覺を取らじ。

(二八) たとひわれ仏を得たらんに、十方の衆生、至心信樂して、わが国に生ぜんと欲ひて、乃至十念せん。もし生ぜずは、正覺を取らじ。ただ五逆と誹謗正法とをば除く。

(二九) たとひわれ仏を得たらんに、十方の衆生、菩提心を發し、もろもろの功德を修して、至心發願してわが国に生ぜんと欲せん。壽終るときに臨んで、たとひ大衆と圍繞してその人の前に現ぜずは、

一六 離諸不善の願。不善の名 五逆・十惡のよ  
うな、自他を損害する言葉。

一七 諸仏称名の願。咨嗟 讚嘆の意で、ほめた  
たえること。

稱 称揚の意で、仏名(名号)をほめあげること。

一八 至心信樂の願。誹謗正法 仏の正しい教法  
をそしること。

一九 至心發願の願。圍繞 とりかこむこと。